

# 日本選挙学会 ニュース・レター

Japan Election Studies Association

No.24 2001年12月

## 第一回選挙学会の思い出

蒲島 郁夫

日本選挙学会が設立されたのは1981年のことであるから、今年で20周年を迎える。学会の創立総会を兼ねた研究会は、81年10月3日と4日に独協大学で行われた。当時、独協大学には白鳥令先生が在職されていたので、先生が創立総会の中心的な役割を果たされたのであろう。理事長には富田信男先生が選ばれ、企画担当理事に堀江湛、文献・事務局担当理事に白鳥令、出版担当理事には内田満、各先生が就任された。

総会の記念講演は大変豪華で、「D. ストークス・プリンストン大学教授と」・ブロンデル・エセックス大学教授がおこなった。私はその学会でストークス先生と初めてお会いし、それが縁で、三宅一郎先生とプリンストン大学を訪問し、ストークス教授宅に泊めていただいた。その後、客員研究員としてプリンストン大学に一年間滞在したのもそのときの縁である。残念ながら、ストークス教授は若くして逝去されたが、選挙研究における教授の業績は永遠で、毎年、私の講義でプリンストン大学の思い出とともに学生に紹介している。

ブロンデル教授は、現在、猪口孝東大教授と一緒におこなっている、アジア・ヨーロッパ比較研究プロジェクトの共同研究メンバーである。研究意欲はまだまだ旺盛で、論文を書かれるのが誰よりも早い。

研究会の第一日目に堀江先生が「投票率の高低と投票行動の変化」という題で報告された。報告も素晴らしかったが、飽戸弘先生のコメントが、

実に的確で、かつユーモアに溢れたもので、日本の学会であれ以上素晴らしいコメントを聞いたことはない。そのあと私が「選挙の経済学」という、今思うと実につまらない報告を行った。司会は三宅先生、コメントは曾根泰教さんであった。私の報告に対して辛口でかつ素晴らしいコメントをされた曾根さんに申し訳ない気持ちで一杯である。その時、大変恥ずかしい思いをしたので、以来、学会報告をするときはできるだけ万全の準備をもって臨むようにしている。

懇親会では、堀江先生が当時初々しい大学院生であった小林良彰さんを皆に紹介してまわっておられた。それが、小林さんとの初対面であった。実は、私はアメリカから帰国したばかりで、綿貫譲治先生と三宅先生以外ほとんど面識はなかったが、その学会で両先生にさまざまな方々を紹介していただいた。もう一人私の記憶に鮮明に残っているのは畏友猪口孝さんである。猪口さんは学会報告を聞きつつ、最初から最後まで何かを書いたり読んだり（いわゆる内職）されておられた。まだ有名ではなかったが、そのころから猪口さんは多忙を極めていたのであろう。

20年前の学会のことを、これほど鮮明に記憶しているとは自分でも驚きである。それから20年、「少年老いやすく、学なり難し」という言葉が身に染みる。次の学会は東大法学部で行われるが、皆さんの記憶に残る良い学会にしたい。

（かばしまいくお・東京大学教授）

## 2001年度総会議事録

2001年度の総会は2001年5月19日（土）及び20日（日）に香川大学で開催されました。

### 第1日

日時 2001年5月19日（土）12時55分～13時25分  
場所 香川大学

#### 1. 理事長挨拶

蒲島郁夫理事長から挨拶の後、以下の諸点について報告があった。

- ・2001年度大会の参加者が200名近くになったこと。
- ・科研費から110万円の助成を得ることとなり、『選挙研究』をより拡充していくこと。
- ・2002年度の大会は東京大学で開催することが決定し、さらに2003年度については金沢大学で開催することが内定したこと。
- ・2001年10月に2002～2003年度の理事候補者を選出するために選挙が開催されること。

#### 2. 開催校挨拶

・大会開催校を代表して神江伸介大会運営委員長から挨拶があった。

3. 2000年度決算・監査報告の件（2000年度決算の詳細については、本ニュース・レター10ページを参照して下さい。）

- ・西澤由隆及び水崎節文両監事による監査を受けた2000年度決算報告がなされ、河野武司事務局長による趣旨説明がなされ、報告の後、経常部分総額¥9,649,152、特別会計の年報発行準備金¥8,205,082の2000年度決算案が賛成多数で承認された。
- ・併せて会費の納入率が73.8%であることが報告された。
- ・なお当日、西澤・水崎の両監事は体調不良のため欠席であり、両監事による監査報告はなかったが、事前に監査を受けなされた決算報告書の署名、捺印をもって監査報告に替えた。

#### 4. 新入会員の件

- ・19日昼の理事会で新たに入会が承認されたのは12名であること、一方自己都合等による退会が18名であることが報告された。
- ・上記の入退会により本日現在の会員数は493名（内法人会員1社、休会4名含む）となった。

#### 5. 2002年度大会開催校の件

- ・19日昼の理事会において、2002年度の大会を東京大学で2002年5月18・19日に開催することを決定したことが事務局より報告された。

#### 6. その他

- ・河野事務局長より、2001年10月～11月にかけて郵便投票で実施される2002～2003年度の公選理事候補者の選挙の選挙権・被選挙権について確認の説明があった。

### 第2日

日時 2001年5月20日（日）12時20分～12時50分  
場所 香川大学

#### 1. 各委員会活動報告

##### 企画委員会

- ・砂田一郎企画委員長より、来年度の大会の企画公募について、説明があった。

##### 年報編集委員会

- ・川人貞史年報編集委員長より、2002年3月発行予定の『選挙研究』17号の編集作業の進捗状況について報告があった。

##### 文献委員会

- ・和田寛伸文献委員から、業績目録の発行を6月に予定していることが報告された。

##### 選挙管理委員会

- ・中邨章選挙管理委員長から、理事選挙の選挙権・被選挙権（本年7月1日までに年会費完納者）と、10月10日までに投票用紙を配布し、11月10日が投票の締切であることが報告された。

2. 2001年度予算案の件（2001年度予算の詳細については、本ニュース・レター11ページを参照して下さい。）

・河野武司事務局長による趣旨説明がなされ、経常部分総額¥11,148,452、特別会計の年報発行準備金¥9,212,598の2001年度予算案が賛成多数で承認された。

・なお配付した2001年度予算案のうち、誤記のあった一部を下記のように修正した。

「年報発行準備金への繰越金」

「次年度への繰越金」

「8,209,598」

「9,209,598」

#### 4. 新入会員の件

・20日昼の理事会で新たに2名の入会が承認されたことが報告された。

・上記の入会によって本日現在の会員数は495名（うち法人会員1社、休会4名含む）となった。

## 2001年度総会・研究会報告

2001年度日本選挙学会総会ならびに研究会は、5月19日（土）・20日（日）に、香川大学で開催されました。

### 第1日目 5月19日（土）

#### 分科会A・B（10時00分～12時00分）

#### 分科会A 社会心理部会「2000年米大統領選挙選挙戦略研究の視座から」

司会 竹下俊郎（明治大学）

報告1 井田正道（明治大学）

「ゲームと政策はどう報じられたか  
日本からみた米大統領選挙」

報告2 平林紀子（埼玉大学）

「候補者のコミュニケーション戦略」

討論1 三浦博史（アスク）

討論2 石澤靖治（学習院女子大学）

#### 分科会B 制度部会「選挙制度と政策形成」

司会 橋本晃和（政策研究大学院大学）

報告1 後房雄（名古屋大学）

「選挙制度と政策過程 1994年選挙制度の改革の意図と結果」

報告2 堤英敬（香川大学）

「選挙制度と政策公約

小選挙区導入による政策的な選挙戦略の変化」

報告3 名取良太（関西大学）

「選挙制度と政策アウトプット」

討論 伊藤光利（神戸大学）

#### 理事会（12時10分～12時50分）

#### 総会・理事長挨拶（12時55分～13時25分）

#### 分科会C・D（13時30分～15時30分）

#### 分科会C 法律部会「外国人の参政権」

司会 石田榮仁郎（近畿大学）

報告1 岡田信弘（北海道大学）

「外国人の参政権

日本の判例・学説」

報告2 近藤敦（九州産業大学）

「外国人の参政権 外国との比較」

討論 網中政機（名城大学）

#### 分科会D 地方部会「総選挙・県知事選に見る地方における地殻変動」

司会 川戸恵子（東京放送）

報告1 小田敏三（新潟日报社）

「第42回総選挙における地方の地殻変動 新潟2区・4区を中心に」

報告2 西畑善裕（毎日放送）

「第42回総選挙

徳島2区にみる地殻変動」

報告3 星浩（朝日新聞社）

「長野県知事選にあらわれた民意」

討論 河村和徳（金沢大学）

#### 共通論題「2000年衆議院選挙の分析」

（15時45分～18時15分）

司会 小林良彰（慶應義塾大学）

- 報告 1 川人貞史（東北大学）  
「選挙協力・政治資金・戦略投票  
2000年総選挙の分析」
- 報告 2 池田謙一（東京大学）  
「2000年衆議院選挙における社会関  
係資本とコミュニケーション」
- 報告 3 山田真裕（関西学院大学）  
「2000年選挙における  
棄権と政治不信」
- 討論 1 谷聖美（岡山大学）
- 討論 2 平野浩（学習院大学）

**懇親会・開催校挨拶（18時30分～20時30分）**  
＜香川大学生協食堂＞

**第 2 日 5月20日（日）**

**分科会 E・F・G（9時30分～11時30分）**

**分科会 E 国政部会「国政選挙におけるメディアと属性」**

- 司会 蒲島郁夫（東京大学）
- 報告 1 川上和久（明治学院大学）  
「インターネットユーザーの  
政治意識と投票行動」
- 報告 2 加藤元宣（NHK放送文化研究所）  
「候補者属性と小選挙区の地域特性  
との関連性について 2000年衆議  
院議員選挙小選挙区立候補者データ  
の分析」
- 報告 3 水崎節文（椋山女学園大学）  
森裕城（京都女子大学=報告者）  
「小選挙区比例代表並立制における  
地域票の動向」
- 討論 弘中喜通（読売新聞社）

**分科会 F 比較部会「長期政権の終焉と選挙」**

- 司会 砂田一郎（学習院大学）
- 報告 1 曹瑞泰（台湾育達商業技術学院）  
「国政選挙における長期政権の敗北  
理由 台湾の国民党政権と日本の  
自民政権事例の考察」

- 報告 2 岸川毅（上智大学）  
「メキシコPRI体制の崩壊と選挙」
- 報告 3 月村太郎（神戸大学）  
「ミロシエヴィッチ体制と選挙」
- 討論 加藤秀治郎（東洋大学）

**分科会 G 歴史部会「占領期の選挙と政党」**

- 司会 酒井正文（平成国際大学）
- 報告 1 小河達之（兵庫教育大学）  
「占領期の衆議院選挙と保守政党」
- 報告 2 小田義幸（慶應義塾大学）  
「第23回総選挙と  
日本社会党の躍進」
- 討論 1 荒木義修（松阪大学）
- 討論 2 小西徳應（明治大学）

**理事会（11時35分～12時15分）**

**総会（12時20分～12時50分）**

**分科会 H・I・自由論題  
（13時00分～15時00分）**

**分科会 H 理論部会「政治工学(Constitutional  
Engineering)の理論と実際」**

- 司会 岩崎正洋（杏林大学）
- 報告 1 工藤裕子（早稲田大学）  
「G.Sartoriの"Constitutional  
Engineering"の真意とそのイタリ  
ア的コンテクスト」
- 報告 2 吉野篤（秋田経済法科大学）  
「イギリスの政治工学」
- 報告 3 古田雅雄（関西大学）  
「ドイツの政治工学」
- 討論 森正（愛知学院大学）

**分科会 I 方法論部会「選挙研究とシミュレーション」**

- 司会 鈴木基史（関西学院大学）
- 報告 1 和田淳一郎（横浜市立大学=報告者）  
坂口利春（横浜市立大学）  
「A Simulation for the Correction  
of the Gerrymandering」

- 報告 2 品田裕 (神戸大学)  
「比例代表制に関するシミュレーション」  
討論 石生義人 (国際基督教大学)

### 自由論題

- 司会 森脇俊雅 (関西学院大学)  
報告 1 浅野和生 (平成国際大学)  
「大口ロンドンの再生とロンドン市長、市議会議員選挙」  
報告 2 佐々木寿美 (東京市政調査会)  
「福祉政策をめぐる政治過程」  
報告 3 新井雄 (平成国際大学)  
「日米安保反対運動と有権者の政治意識 第29回総選挙を中心に」  
報告 4 今井亮佑 (東京大学)  
「首相評価 マスメディアの影響」  
討論 三船毅 (愛知学泉大学)

## 各委員会からのお知らせ

### 【企画委員会から】

今回の日本選挙学会の総会・研究会は、2002年5月18、19の両日、蒲島郁夫理事長が勤務されている東京大学(本郷)で開催されます。企画委員会では目下、各委員が全力で充実した研究会の企画に取り組んでおり、12月初旬の理事会にはその内容をすべて報告できる段階まで来ております。皆様のご期待に応えられるものになりそうですので、ぜひ多くの会員の方々の参加をお願いいたします。

次回研究会での報告の公募には、会員から多数の応募をいただきありがとうございました。11本の応募があり、9月の企画委員会で審査した結果、今回はすべての採用が決まりました。また今回初めて一会員より「政界再編期の地方における政治過程」と題するパネルの企画が、応募提案として出てまいりました。企画委員会でこの扱いを検討した結果、報告募集の応募規定は単独の報告のみ

と限定してはいないし、初めての試みであるが提案の内容もしっかりしているので研究会の活性化のために採用してみよう、という結論に達しました。(理事会も承認)。その結果、次回の研究会は共通論題と、各部会が組織する9つの分科会の他に会員提案の上記の分科会と、従来の自由論題を分科会化した2つが加わることとなります。

さて各分科会の企画の内容ですが、7月の参議院選挙での小泉旋風のインパクトが大きかったために、複数の分科会が小泉選挙と彼の主張する改革に関する企画を立てています。この選挙そのものの分析に取り組むのは、国政部会です。そこで共通論題ですが、今日のタイムリーな構造改革という用語を使いながら、より長期的な視点でわが国の政治体制の構造的な特徴を批判的に解明し、それを変革する条件を探るといった、従来の選挙学会のパネルからは一歩踏み出したような野心的企画を考えました。タイトルに「構造改革と選挙」とあるように、学会の主要テーマである選挙のことはもちろん忘れていません。ここでいう構造改革とはいま一般に使われている小泉流の新自由主義的な小さな政府を目指す経済財政改革を意味すると同時に、自民党の一方支配を長いこと支えてきた構造一般の本格的な改革を意味し、両者の意味をダブらせています。前提となる認識も、わが国の民主党がよく言う「選挙による政権交代がなければ真の構造改革は出来ない」(小泉流の改革すら出来ない)という視点と、「真の構造改革(この場合は自民党支配を支える構造の改革)がなければ選挙による政権の交代は実現しない」という立場の両方を含んでいますが、この点については後者の命題に比重をかけて考えております。報告者、討論者は若手の論客を中心にそろえております。興味深い議論が聞かれるはずですのでぜひご期待ください。

最後に毎回のお願いで恐縮ですが、次回研究会の報告をお引き受けいただいた会員の方々は(12月下旬までに正式の報告依頼の文書をお送りします)、レジュメと論文の締め切り期限までのご提出(締切期限は12月に届く文書で確認してください)をよろしくお願いいたします。企画委員会に

対するご意見、ご要望がありましたら、砂田宛てEメールでお送りください。

19950050@gakushuin.ac.jp

では来年5月に東京でお会いいたしましょう。

(企画委員長 砂田一郎)

### 【年報編集委員会から】

2002年3月刊行予定の第17号の編集作業はほぼ完了しています。本号では、池田謙一委員が担当された特集「日本の社会関係資本」と小林良彰委員が担当された特集「政治改革以降の投票行動」の2つを組んでいます。前者は比較政治研究の新しい理論動向を取り入れたもので注目を集める研究成果だと思えます。後者の特集は、今年の総選挙と今夏に行われた参院選の投票行動の分析であり、『選挙研究』の特集としてふさわしくかつタイムリーな内容だと思えます。

これらの特集論文5本の他に、本17号では依頼・投稿論文6本、研究ノート1本、資料1本、書評15本が掲載される予定です。

本号の投稿論文については、10本が投稿締切期日までに提出され、編集委員会では匿名の外部レフェリー各2名の方に査読を依頼しました。その結果、5本が「修正の上、掲載可」、3本が「大幅修正を要する」、2本が「掲載不可」と審査されました。

編集委員会では、次号の編集から投稿論文の査読プロセスの変更を考えています。電子メールが研究者の間でほぼ全員に普及したことから、印刷された論文ではなく、ワープロ・ファイルをレフェリーに添付ファイルとして送ることにより、査読プロセスをよりスピーディに進めたいと思えます。そのため、下記の通り、投稿要領が若干変わりますので、注意をお願いします。

第18号(2003年)への公募投稿論文を下記の要領で受け付けますので、是非多くの会員の方の投稿をお願いいたします(詳細は第17号巻末参照)。

1. 投稿申込締切: 2002年4月24日(水)必着
2. 投稿原稿締切: 2002年5月15日(水)必着
3. 提出物: 執筆者氏名・住所・所属・職名・

連絡先住所・電話・FAX番号・E-mail、論文概要(1000字程度)、原稿(400字×約47枚程度)を2部とワープロ・ファイル(ウィンドウズ版のワードか一太郎)提出。執筆要領(第17号巻末参照)をご覧ください。

4. 送付先: 〒980-8576

宮城県仙台市青葉区川内

東北大学大学院法学研究科 川人貞史研究室

(年報編集委員長・川人貞史)

### 【文献委員会から】

本年6月、「日本選挙学会文献目録」を刊行することができました。今回の文献目録からすべての業績にコード番号を付けて、巻末にコード番号別索引を掲載しました。有効にご活用くだされば幸いです。まだ改善の余地があるかも知れませんが、お気づきの点があれば、ぜひご意見をお寄せください。

会員の皆様のご協力に、改めて感謝申し上げます。

なお、目録の表紙に「1999-2001」とありますが、これは「1999-2000」の誤植ですので、ご訂正くださいますよう、お願い申し上げます。

(文献委員長・杉本稔)

### 【選挙管理委員会から】

2001年度日本選挙学会理事選挙を、理事・監事候補選出規定にもとづき、2001年11月10日を期限に実施いたしました。11月19日に選挙管理委員会の委員3名が集まり、厳正に開票作業を進めました。

開票結果は以下の通りです。

投票用紙発送数 275通

着信郵送投票数 166通(うち無効8通)

有効投票数 158通

投票率は、60.4%です(先回は、68.4%)。今回の選挙では、8名の有効連記から2名の有効連記を含めて、総有効投票数は合計1210票になりました。なお、期限を過ぎて着信した投票はありません。結果は、従来と同様、すみやかに理事長に報告いたしました。

会員の皆さまのご協力に深謝もうしあげます。  
(選挙管理委員長・中邨章)

中野 邦観(読売新聞)  
中邨 章(明治大学)  
和田 寛伸(秋田経済法科大学)

以上、16名。

## 理事候補者選出選挙の結果

前記の選挙管理委員会からのご報告にありますように、2002～2003年度期の理事候補者選出選挙の開票結果に基づき、理事長より当選者に対して次期理事候補への就任のご意思を確認いたしましたところ、以下の16名の会員の方全員が次期理事候補者への就任を承諾されましたので、ご報告申し上げます(あいうえお順)。

また、この公選理事候補による理事・監事候補者選考委員会が12月1日(土)に開催されましたが、この選考委員会において下記の7名の会員が推薦理事候補として、また2名の会員が監事候補として選出されましたので、併せてお知らせ申し上げます(あいうえお順)。

なお、2002～2003年度の理事会は、ここでご紹介する16名の公選理事と、この公選理事が推薦する理事(推薦理事)若干名の合計24人以内が、来年5月の総会(東京大学で開催予定)にて、会員の皆様よりご承認いただいた後、正式に発足いたします。

### 【現公選理事候補】

浅野 和生(平成国際大学)  
荒木 義修(松阪大学)  
池田 謙一(東京大学)  
石田 榮仁郎(近畿大学)  
岩淵 美克(日本大学)  
内川 正夫(武蔵野女子大学)  
加藤 秀治郎(東洋大学)  
川戸 恵子(東京放送)  
桑原 英明(常磐大学)  
神江 伸介(香川大学)  
小林 良彰(慶應義塾大学)  
田中 愛治(早稲田大学)  
谷 聖美(岡山大学)

### 【推薦理事候補】

油川 洋(尚絅女学院短期大学)  
岩崎 正洋(杏林大学)  
川人 貞史(東北大学)  
河村 和徳(金沢大学)  
河野 武司(杏林大学)  
竹下 俊郎(明治大学)  
藤井 徳行(兵庫教育大学)

以上、7名。

### 【現監事候補】

平野 浩(学習院大学)  
森脇 俊雅(関西学院大学)

以上、2名。

## 理事会だより

### 【代表派遣について】

本年は日本学術会議が国際交流事業の一貫として実施している国際会議への代表派遣に対する助成を受けることができました。本学会から選出されている第18期学術会議会員の芹澤功会員(前理事長)を、2001年7月14日から19日の日程でメキシコのクエルナバカで開催された国際政治心理学会第24回年次総会へ派遣し、国際交流を深めました。

### 【会費滞納者へのお願い】

会費の滞納は、理事選挙、学会報告、年報への論文掲載その他に不利益になることがあります。また学会運営そのものにも支障を来すことになり

ますので、過去の滞納分も含め、お支払い下さるようお願い申し上げます。会費納入方法については、最終ページにある「事務局だより」の項をご覧ください。

### 【科研費による出版助成】

本学会の年報『選挙研究』を発行するにあたって、これまで第12・13号は文部科学省の科学研究費補助金による助成25万円を受けることができました。しかし第14号から16号につきましては、残念ながら助成を受けることができませんでした。

2002年3月発行予定の第17号に関しましては、10万円の助成を受けることができました。第18号以降も継続して助成を受けられるよう、申請を行っていきます。

### 【新入会員】

昨年度のニュース・レター発行以降に新たに入会が認められた方は、以下の通りです。

#### ・2000年度入会者

小泉 健（秋田経済法科大学）

山田 光矢（日本大学）

#### ・2001年度入会者

石井 仁（秋田テレビ株式会社）

石川 寛（名古屋大学大学院）

上神 貴佳（東京大学大学院）

漆戸 宏宣（慶應義塾大学大学院）

遠藤 晶久（早稲田大学大学院）

小田 敏三（新潟日报社）

尾野 嘉邦（東京大学大学院）

河村 直幸（新潟大学大学院）

慶 済姫（慶應義塾大学大学院）

桑原 望（国土館大学大学院）

加ツ・E・コックス（東京大学社会科学研究所）

小堀 眞裕（立命館大学）

笹島 智子（輿論科学協会）

塩沢 健一（中央大学大学院）

清水 克敏（日本放送協会）

菅原 琢（東京大学大学院）

高野 徳博（大原法律専門学校）

武田 興欣（青山学院大学）

長富 一暁（早稲田大学大学院）

久富 博之（慶應義塾大学大学院）

福元健太郎（学習院大学）

藤井 篤（香川大学）

星 浩（朝日新聞社）

山本 耕資（東京大学大学院）

楊 合義（平成国際大学）

渡辺 耕治（平成国際大学大学院）

## 【退会会員】

昨年度のニュース・レター発行以降、下記の会員が退会されました。

飽戸 弘（自己都合）

大宅由里子（自己都合）

岡本 宏（逝去）

沖田 哲也（自己都合）

岸野 廣紀（自己都合）

五味 太始（自己都合）

蔡 国強（自己都合）

坂本 隆幸（自己都合）

澤 大洋（自己都合）

佐藤 雄一（自己都合）

篠原 学爾（自己都合）

下村 有佳（自己都合）

関根二三夫（自己都合）

田島 治（自己都合）

田端 繁（自己都合）

張 元皓（自己都合）

中野 実（逝去）

橋口 毅（自己都合）

平山 正剛（自己都合）

間宮 庄平（自己都合）

南 博（自己都合）

山川 雄巳（自己都合）

吉川 尚美（自己都合）

若田 恭二（自己都合）

渡辺 重範（自己都合）

なお、お亡くなりになられた岡本宏会員、中野実会員におかれましては、長年にわたる学会への貢献を深謝いたしますとともに、心からお悔やみを申し上げます。

## 【現在会員数】

上記の異動で、2001年12月初現在の会員数は、501名（内法人会員1社、休会中5名含む）となっています。

## 2 0 0 0 年度決算報告

収	入	支	出
	(円)		(円)
前年度よりの繰越金	4,963,507	総会研究会費	484,384
寄付金		委員会・事務局活動費	400,000
桜田会	1,400,000	会議費	19,257
会費	3,073,190	通信費	413,876
年報等売上金	210,150	学生アルバイト	88,800
受取利息	2,305	謝金	90,000
		印刷費(年報16号印刷費含む)	1,768,382
		文具費	7,202
		雑費	8,165
		学会ホームページ制作費	123,634
		年報発行準備金へ繰入れ	1,000,000
		次年度への繰越金	5,245,452
合　　計	¥9,649,152	合　　計	¥9,649,152

### 年報発行準備金

収	入	支	出
	(円)		(円)
前年度からの繰越金	7,192,641	次年度への繰越金	8,202,598
一般会計からの繰入金	1,000,000	税金	2,484
受取利息	12,441		
合　　計	¥8,205,082		¥8,205,082

2 0 0 1 年 (平成 1 3 年) 3 月 31 日

以上の通り相違ありません。

監事　西澤　由隆　　印  
 監事　水崎　節文　　印

## 2 0 0 1 年 度 予 算

収 入	支 出
( 円 )	( 円 )
前年度よりの繰越金	総会研究会費
5,245,452	500,000
寄付金	委員会・事務局活動費
桜田会	600,000
1,400,000	会議費
科研費	50,000
1,100,000	通信費
会費	500,000
3,200,000	学生アルバイト
年報等売上金	150,000
200,000	謝金
受取利息	100,000
3,000	印刷費（年報17号印刷費含む）
	3,300,000
	文具費
	20,000
	雑費
	50,000
	学会ホームページ制作費
	100,000
	年報発行準備金へ繰入れ
	1,000,000
	次年度への繰越金
	4,778,452
合 計	合 計
¥11,148,452	¥11,148,452

## 年 報 発 行 準 備 金

収 入	支 出
( 円 )	( 円 )
前年度からの繰越金	次年度への繰越金
8,202,598	9,209,598
一般会計からの繰入金	税金
1,000,000	3,000
受取利息	
10,000	
合 計	合 計
¥9,212,598	¥9,212,598

## 事務局だより

### 【会費の納入について】

会費は郵便局を通して納入することができます。  
口座番号と会費は以下の通りです。

振込先(加入者名) 口座番号  
日本選挙学会 00170-2-31731

### 年会費

正会員(大学院生以上) : 8,000円  
法人会員 : 50,000円  
準会員(学部学生のみ) : 2,000円  
(会費を納入された方には、該当する年度の『選挙研究』を送付いたします。)

会費の滞納は学会運営に深刻な支障をきたすのみだけでなく、会員間での取り扱いの不公平をももたらします。

過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡や、研究会での報告・年報への投稿資格などが、停止される場合もあります(この措置は、1995年5月21日の理事会で決定し、同日の総会で報告・承認された「会費滞納者の扱いについて」に従います。内容の詳細については、『ニュース・レター』第18号に掲載してあります)。

また当該年度も含めて入会されてからの会費に一年度でも滞納がある場合は、理事選挙における選挙権・被選挙権が停止されます(この措置は、1999年5月22日の総会で報告・承認されました)。

本年度の会費のみならず、過去の年度の会費を滞納されている方には、併せてお支払いいただきますよう何卒お願い申し上げます。

なお、本年度も含めて過去の会費をまだ納入していただいていない会員の方には、このニュース・レターとともに納入状況を別紙にてお知らせいたしておりますが、確認されたい方は、事務局長・河野武司までご連絡下さい(連絡先は右の段をご覧ください)。

### 【2002年度の研究会・総会について】

2002年度の研究会・総会は、2002年5月18・19日の予定で、蒲島郁夫大会運営委員長の下、東京大学(東京都)で開催されます。

### 【事務局への連絡について】

日本選挙学会の事務局は、理事長の所属である東京大学に所在しておりますが、事務局幹事は以下の6名が務めております。

事務局長：河野武司(杏林大学社会科学部)  
幹事：池谷知明(拓殖大学政経学部)  
石高晴奈(東京大学法学部)  
河崎 健(上智大学外国語学部)  
堤 英敬(香川大学法学部)  
幹事補佐：今井亮佑(東京大学大学院)  
中條美和(東京大学大学院)

学会事務に関することは、上記の6名にお気軽にお尋ね下さい。また住所や所属の変更などがある場合は、事務局長・河野までお知らせ下さい。

なお、郵送でのご連絡は：

〒192-8508 東京都八王子市宮下町476

杏林大学社会科学部 河野 武司

電話でのご連絡は：

杏林大学社会科学部・河野武司

TEL:0426-91-0011 内線2577

FAX:0426-91-5899(杏林大学社会科学部)

E-mailでのご連絡は：

tkohno@beige.ocn.ne.jp

まで、いただければ幸いに存じます。

2001年12月

発行：日本選挙学会事務局

河野 武司

〒113-8654

東京都文京区本郷7-3-1

東京大学法学部

蒲島郁夫研究室気付

日本選挙学会事務局

TEL 03-5841-3263(直通)

FAX 03-5841-3174(受付)